



写真集 太陽—身近な恒星の最新像—

柴田一成・大山真満共著

裳華房, 87 頁, 4,725 円

専門書

お薦め度

☆☆☆☆☆

最新の太陽写真を集めた、すばらしい写真集が出た。

「太陽」と言えば、皆さんはどんなことばを連想するだろうか？ 人によってさまざまだろうが、「黒点」「太陽コロナ」「太陽フレア」「プロミネンス」「皆既日食」などのことばが期待される（こういった答えは実はなかなか出してくれないのだが）。この本にはこれらの写真がすべて掲載されている。そのほかにも「スプレイ」や「モートン波」など、一般にはなじみのうすい現象の写真も収録されており、「太陽の表面ではこんなことも起きているのか」と、意外と知られていない太陽の一面を知ることができる。太陽以外の専門の方にも、ぜひ手にとって見ていただきたい一冊である。

この本は、白色光、 $H\alpha$ 線、 X 線、電波など主に観測波長別に、七つの章から構成されている。さらに、さまざまなキーワードをもとに、1 ページごと、全部で 73 のトピックスが、カラフルな画像とわかりやすい説明文とともに構成されている。 X 線の章では、今年の 4 月 23 日に、ついに最終運用がなされた太陽観測衛星「ようこう」による写真がふんだんに紹介されている。観測そのものは 2001 年の 12 月に終えているが、活動的なコロナ、太陽フレア、マイクロフレア、 X 線ジェット等々、1991 年の打ち上げ以来、約 10 年にわたってようこうによって発見された数々の観測成果が紹介されている。 $H\alpha$ 線の章では京大飛騨天文台、電波の章では野辺山電波ヘリオグラフなど国内の太陽観測施設で撮影された写真も多数掲載されている。ただ見栄えのいい写真を集めたわけではな

く、研究成果を伴った写真であることも注目したい。巻末の出展一覧には引用した論文がわかるようになっている。SOHO 衛星や TRACE 衛星といった海外の衛星で撮影された写真も掲載されているが、全写真の 70% が国内の太陽研究の成果である。これは、日本の太陽研究者が国際的にも活躍していることを示している。これだけの写真を集めることができたのは、ひとえに著者らの努力と情熱のたまものであり、この 10 年間の太陽研究の発展の歴史が凝縮されている。

大学で天文学の講義をされる方には、太陽関係の参考資料・ネタ本としても十分に活用できる。研究室に一冊常備しておくのもよし。意外なことに、天文学研究者でもプロミネンスとフレアを混同してしまう人がいる。観測する波長によって現象が異なって見えるためであろう。太陽現象を表す用語が多いこともある。その意味で、太陽関係の用語や知識の整理に大いに役立つし、教育資料としても価値が高い。

さて、太陽分野の人間がこのような書評を書く、ついひいきみに書いてしまうもの。そこで、太陽が専門外の研究者や、教育関係者、大学院生にも実際に手に取って、見ていただいたところ、「写真がきれいだし、説明の文章もわかりやすい」と非常に好評であった。

2006 年に SOLAR-B 衛星が打ちあがったあかつきには、ぜひとも「写真集・太陽」第 2 弾を出版して、SOLAR-B が撮影した太陽写真を追加してほしい。

矢治健太郎（和歌山大学）